

歴史探訪

クラブ

History Inquiry Club



文化財課 ☎23局 3635
FAX 22局 3811

田原が誇る思想家・岡田虎二郎

虎二郎は、教育に対しても多く発言をしていますので、いくつかご紹介しましょう。

「教えただけのことを記憶させるのが教育ではない。教えただけのことを模倣させるのが教育でもない。教えないことを発明し、発見し、創作するところの所謂創造の力を、わき出しむるのが教育である。」

※「ペスタロッチーは貧乏人のみ同情しすぎた。貧富共に同じ様に見えなければ本当の愛ではない。貧乏人のか



▲蔵王園地に眠る岡田虎二郎

はいそんな事は知って居ても、金持ちや上流人を憎むものが多いが、修養の上から見れば貧乏人と少しも違ひないばかりか、寧ろ一層お気の毒な点がある」

「忠君愛国を説く者は国を亡ぼす者である。我が君主たるが故に敬せよ、我が国家たるが為に愛せよ、我が祖廟たるを以て崇めよ、といふのは真の大愛ではない。相対的の愛である。而も是を觀念として注ぎこんで、之を他に強ひんとするに至っては危険之より甚だしきはない。大愛は絶対であつて、天の覆ふが如く、他の載するが如く、貴賤もなく、階級もなく、貧富もない。国境もなければ、人類鳥獸の差別もない。天皇を敬する心



▲静坐碑(田原城 三の丸)

も鳥獸を愛する念も大愛には高下はないのである。」

大正元年、このような虎二郎の発言は忠君愛国教育を進めた時代には、危険思想として社会的に認められるものではありませんでした。しかし、その後日本が、太平洋戦争に導かれたことを考えれば、虎二郎の警告はまさに先見の明があつたといわざるを得ません。

虎二郎は別の語録で、教育の根本にあるのは「愛」で、その愛は「太陽の光のような愛」と述べ、愛の教育はすべての人を変えることができるとしています。虎二郎の思想の根本とする「大愛」は、すべてのものに対する絶対的な愛なのです。

虎二郎は金にも縁がなく、強制的に教えようとせず、講演、著作すらも行いませんでした。日記も後年、誤解を招くとして処分しています。

今伝わる虎二郎の思想は、静坐の会や日常の中で聞いた弟子や知人たちがまとめたものなのです。静坐を通じて伝えられたその言葉は、ひとつひとつが心に突き刺さるように鋭いですが、温かさに包まれています。今こそ、虎二郎の思想を学ぶべきでしょう。

ここに紹介したものは『伊奈森太郎遺稿抄』（「静坐百訓補説」）に掲載されています。市内の図書館でご覧いただけますので、ぜひ、ご一読ください。

※ペスタロッチー
スイスの実践教育学者。貧民の救済のほか近代教育の基礎を築いた。

(増山)

今月の「表紙」

▼田原市のアルストロメリアの平成18年農業産出額 は、市町村別で全国1位。

生産農家のお宅を訪ねてみると、作業場はまるでお花畑のようでした。お花が届いた人も笑顔になるようにと、心を込めて栽培しているとのこと。きつと全国で、笑顔の花が咲くことでしょう。(O)

【表紙の写真】アルストロメリアを愛情こめて栽培している農家さん(古田町)